

令和2年8月11日

## 在日ブラジル人生徒のインターネット依存傾向は日本人より懸念あり、利用時間やうつ傾向と関連

### <概要>

浜松医科大学地域家庭医療学講座で行った、医学科5年の青木大祐さんの研究成果が、日本プライマリ・ケア連合学会誌に2020年6月23日公開されました。在日ブラジル人生徒のインターネット依存傾向を調査し、平日のインターネット利用時間（4時間以上）とうつ傾向と関連があることがわかりました。

### <研究の背景>

インターネットやスマートフォンの普及に伴い、インターネット依存傾向の増加が懸念されています。これまでに、青少年のインターネット依存傾向は学力の低下、睡眠障害やうつ等の精神症状への影響があることが指摘されています。ブラジル人を初めとして外国人が多く暮らす静岡県では、外国人の主要健康課題として精神疾患が挙げられていますが、インターネット依存傾向の現状は明らかではありませんでした。在日ブラジル人生徒のインターネット利用状況と依存傾向について調査しました。

### <研究の成果>

静岡県A市在住ブラジル人生徒（小学校5年生から高校3年生）を対象としてポルトガル語で質問紙調査（222名、65%が回答）を行ったところ、インターネット依存傾向が高い生徒は6.3%と、日本人学生やブラジル本国での調査より高いことがわかりました。インターネット利用時間が1日4時間を超える生徒は平日で57.2%、休日では68.5%と高い割合でした。言語や文化の違いによりインターネットに頼らざるを得ない生活環境があること、授業や部活のスケジュールで空き時間が発生していることなどが、インターネットの利用に影響している可能性が考えられました。インターネット依存傾向とうつ傾向との間で関連があることもわかりました。

今後、より詳しい調査により、予防策や対応策を探っていく必要があると考えられます。

### <研究グループ>

浜松医科大学 地域家庭医療学講座  
青木大祐 医学部医学科5年  
金子惇 特任助教（現 横浜市立大学 講師）  
井上真智子 特任教授

### <本件に関するお問い合わせ先>

浜松医科大学 地域家庭医療学講座 特任教授 井上真智子  
TEL: 053-435-2416

### <参考>

この研究は、2019年5月19日京都で行われた第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（学生セッション）で、最優秀発表賞を受賞しました。